

III-6

妊孕性の観点におけるピクノジェノールの利点

○小濱 隆文¹⁾

1) 恵寿総合病院

【目的】

フランス海岸松樹皮抽出物（ピクノジェノール）の妊孕性への関連について、これまでの論文を（medline を中心に）検討した。

【方法】

2000 年以降で、月経困難症、子宮内膜症関連のピクノジェノール臨床治験論文 8 件（英語 7 件、日本語 1 件）が検索され、これらを検討した。

【結果】

上記論文中、月経困難症関連は 4 件、子宮内膜症関連 4 件であり、更にそれらの中、月経困難症の二重盲検試験 1 件、子宮内膜症・月経困難症のホルモン剤比較試験 4 件、子宮内膜症に関連すると思われるサイトカインを調べたもの 2 件であった。いずれのピクノジェノール投与群においても、有意な月経困難症・子宮内膜症の改善のもとに、月経周期は正常に保たれており、さらに正常（もしくは改善）と思われる妊娠頻度も確認された。サイトカインに関しては、両論文で、ホルモン療法群に比較し、ピクノジェノール投与群で、子宮内膜において著しい NF- κ B 活性の抑制が認められた。

また、子宮内膜症・月経困難症に対する従来のホルモン療法に特徴的な副作用（不正出血、ホルモン欠落症状、体重増加、浮腫および治療後の症状増悪など）は、ピクノジェノール投与群で殆ど認められなかった。更にホルモン投与とピクノジェノール投与を同時に行うことにより、ホルモン療法の諸々の副作用が抑制され、治療後の再燃頻度も明らかに減少させた。

【結論】

従来の月経困難症・子宮内膜症のホルモン療法は、治療期間中では排卵抑制などにより妊娠が中断されることが殆どであり、さらに治療後の再燃も高頻度に起こることがあり、妊娠という最終治療目標から考え、非効率的な側面が大きな問題となっていた。ピクノジェノールはこれらの側面を包括的にクリアするものと考えられる。